



今月のトピックス

「感染対策管理室の活動について」



国立病院機構沖縄病院  
感染対策管理室長  
(統括診療部長) 比嘉 太

沖縄病院は「患者様の立場を尊重し高度で良質の医療を提供します」を基本理念としています。直接目にみえる形で、患者さんに高度で良質の診療やケアをさせて頂くことはもちろんですが、患者さんには少し見えにくいところでも様々な取り組みが行われております。感染対策管理室はその一端を担っています。患者さんは本来の病気のために体力や病原体に対する防御力が低下しているため、治療経過中に予期せぬ感染を合併するリスクがあります。そのリスクを低減させるためにさまざまな感染対策を実施しています。

感染対策管理室は感染管理に関する認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、医師などがチームとして活動しています。少なくとも週一回は病棟や各部署をラウンドして、感染対策が適切に実施されているか確認をしています。また、感染対策に関する講習会を定期的で開催し、他病院(琉球大学医学部附属病院、国立病院機構琉球病院、海邦病院など)と連携してよりよい感染対策の構築に努めております。



◆週1回行われるICTラウンド  
医師(ICD)、看護師(ICN)、薬剤師、検査技師が各部署をラウンドし、感染管理に関する指導や相談に応じます。

病原体の伝搬を防止する具体的な方策としては、たとえばインフルエンザ流行期にはマスク着用と手洗いを励行します。薬剤耐性菌には接触感染予防策を行います。接触感染対策では、マスクや手袋、エプロン、ガウンなどを着用してケアを行い、場合によっては個室管理にて対応させて頂く場合があります。結核では室内の十分な換気とN95マスクという特殊な高品質のマスクが有効です。正しい手洗いの励行は感染対策に極めて有効ですので、患者さんや面会の方々にも実行して頂きたいと思っております。

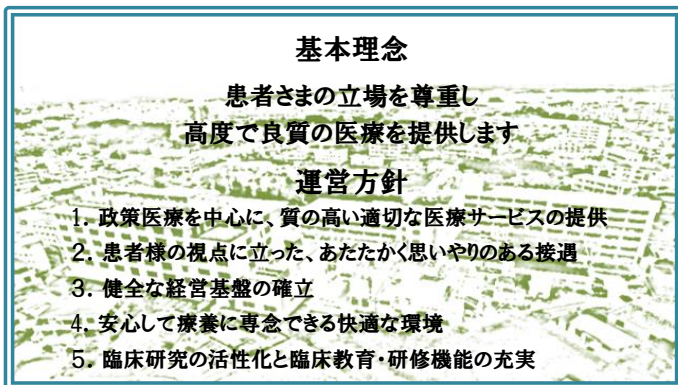
沖縄病院では病院感染のリスクを減らすために、日々努めております。入院されている患者さんやご家族にご協力をお願いする場合があります、とまどう事があるかもしれませんが、ご理解を頂きたいと思っております。

基本理念

患者さまの立場を尊重し  
高度で良質の医療を提供します

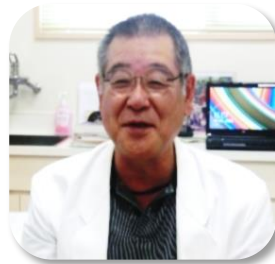
運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者様の視点に立った、あたたかく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実





## 西平医院 院長 西平 守樹 先生



2001年に、宜野湾市上原に開院して17年が経った。早いものである。1979年に研修医として、南部徳洲会に入職した。当時は、心療内科医志望であったが、いきなり心療内科医になると、病気全てを心身症としてしまわないか、不安があり、医学全般を研修したくて、南部徳洲会に入職した。

そのうちに、内科の謎解きの面白さに1年のぼし、2年のぼししている間に、今の内科医となったのである。当初の内科救急から、地域に入っの診療とは、いろんな面で違いがある。内科医とはいっても、地域では“皮膚が痒い…”とか、“目がチカチカする”とか、種々雑多な訴えの患者がいる。それらの訴えに最も適切な診療科に紹介するというのも自分の仕事の1つになってきた。まるで、交通整理をする警察官のようである。勿論、内科の患者を重症化させずにコントロールする。

急性疾患を見のがさずに、救急を手配する事も重要な仕事である。17年とは、長いもので、当初一緒に酒を飲んだ患者が、最近認知症になってしまったり、看取りをしなければならぬ場面も増えてきている。

一方、当時小学校検診で診た子が“西平先生、子供生まれたヨ！”と言って子供を抱いて当院に来る。嬉しい事も辛い事も多かつまった17年である。

開院にあたって、さらにこれからも診療するのに心に決めた事がある。

それが、西平医院のモットーで、下記に記す。

**愛する父母を 看(診)るように**  
**愛おしい我が子を 見るように**  
**愛する我妻を 見るように**  
**愛おしい恋人を 見るように**  
**貴方を看たい**



患者を病んでいる人として診るのではなく、愛情をもって1人の人格として、診療にあたる。これからも、そうでありたいと思う。

## 緩和ケア病棟紹介



## 国立病院機構沖縄病院 緩和ケア病棟長 久志 一郎



沖縄病院緩和ケア病棟は、2年間の準備段階を経て2006年6月に15床から始まりました。その後、20床に増え近隣の病院、診療所、クリニックの協力のもと12年目を迎える事が出来ました。

2018年3月からは、新病棟建設に伴い25床へ増え、名称も南6病棟へ変更となり、旧病棟と比べベテラスの設置や面会場所も広くなり環境的にも良くなりました。当院外来では、緩和医療科を標榜して月(午前・午後)、水(午前)、木曜日(午前、午後)に他院からの緩和ケア目的に紹介頂いた患者さん、ご家族との面談を行っています。当院への紹介から外来での面談までには3日から2週間(平均12日)、更に入院までに1~2週間程度かかります。空床がある際には面談翌日の入院も積極的に行っていますが、面談予定件数や患者、家族の都合もあり紹介から入院・転院までに数週間を要する場合があります。入院に関しては、重症度・予後予測も考慮しますが基本的には当院入院希望患者を面談した順番で受け入れています。

現況ですが、2017年の総紹介患者数は249人、年間入院患者数は156人で入院キャンセルの約半数が患者の状態悪化で転院困難となっています。入院後経過では、約18%(28/156件)の患者が入院7日以内に死亡、入院30日以内に58%(90/156件)が死亡退院となっています。外来通院患者の10%が疼痛増強、食欲不振、日常生活活動低下などの理由で当院緊急入院となっています。当院は救急外来を行っていないため、祝祭日や夜間帯で当院が対応出来ない場合、大変申し訳ないのですが紹介元の救急外来を受診するよう説明しています。

これからも近隣の医療機関のご協力のもと、外来・入院を通して緩和ケアに努めてまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 消化器検査について

国立病院機構沖縄病院  
総合診療科部長 樋口 大介



沖縄病院消化器内科は10年以上前から、**からだに優しい内視鏡**を心がけて、毎日できるだけ苦しくない内視鏡を目指して行なっています。年間で上部内視鏡、下部内視鏡あわせて1,000例ほど行なっています。大腸ポリープのポリペクトミー、EMR、ESD、ERCP、胆管結石の内視鏡治療も行なっています。

当科の胃内視鏡は基本的に経鼻内視鏡で行なっています。ただし、鼻孔が小さめの方が1-2割おられますが、その場合は、鼻が痛かったり、鼻血が出たりするので口からの胃カメラとなります。この場合はノドの麻酔をしますが、当院独自に開発したノド麻酔用キャンディがありますので、美味しいキャンディを舐めているうちにノド麻酔できることが特徴です。麻酔キャンディは、沖縄県では初めての試みです。

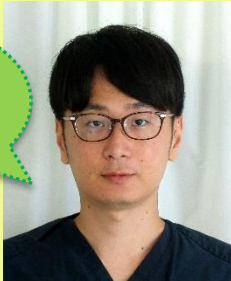


大腸内視鏡の前処置は一般には当日朝に2リットルもの美味しくない下剤を2時間で飲むことになっています。あまりに苦痛であるので5年前から当院では検査前日夜に半分、検査当日朝に半分飲む事にしていただいぶ楽になったと喜ばれており、また排便の効果もほとんど損なわれていません。

また当院では大腸CT（CTで大腸の内部が詳しくわかる）が可能です。大腸内視鏡があまりに怖くて受けるべきなのに受けていない患者さんとか、術後の影響で大腸カメラが難しい場合に非常に有用です。

## 新任医師紹介

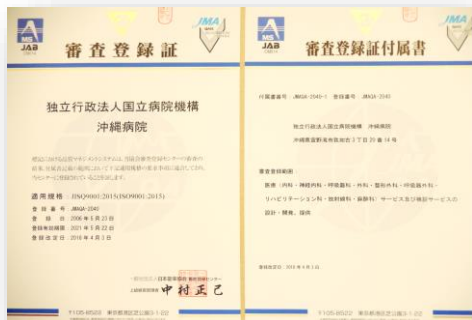
よろしく  
お願いします



初めまして、4月からお世話になっております神経内科の赤嶺といいます。琉球大学を卒業し、県立中部病院、琉球大学第三内科 神経内科で勤務していました。

神経内科の醍醐味は患者様から多くを教わることだと思っています。お話をよく聞かせて頂き、丁寧に診察をさせていただくことが肝心です。まだまだ勉強中の身ですので、皆さまから教えていただき、一緒に解決方法を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

神経内科医師  
赤嶺 博行(あかみね ひろゆき)



## ISO9001 2015年版取得しました！

当院は平成18年にISO9001 2000版を取得し、ISO9001 2008版を経て、平成29年12月12日、13日の二日間にISO9001 2015版規格移行の特別審査を受審し、平成30年4月3日付で更新登録されました。

「ISO」とは、国際標準化機構(物やしくみの国際標準を決める非政府機関)の略称です。「ISO 9001」は、顧客に提供するサービスの品質を継続的に向上させていくことを目的とした**品質マネジメントシステムの規格**です。今回はISO 9001 2015版への規格移行ということで当院の品質マネジメントシステムマニュアルを全面改訂することから始まりました。約1年間改訂作業を行い、平成29年4月から運用を開始し、特別審査を受審しました。取得のきっかけは緩和ケア病棟の施設基準取得のためでしたが、現在はISO 9001のツールを使い医療の質の向上・標準化、人材育成、コストダウン、経営の改善に大きな効果を上げています。



## 看護実践講座報告

平成30年6月6日(水)に当院で開催した、看護実践講座をご紹介します。今回の講師は当院の認定看護師です。

テーマ ①「放射線看護のエッセンス」

講師：がん放射線療法看護認定看護師

西本 麻里子

②「効果的なレスキューで痛みとさよなら！」

講師：がん性疼痛看護認定看護師

伊良部 梨知子

今回の実践講座は、「放射線療法を受ける患者さんの看護」と「痛みのアセスメント・薬剤の特徴と痛みの評価」に関する講義でした。仕事帰りのお疲れの中、35名という多くの皆さんが参加してくださいました。

アンケート結果では、参加の理由として「興味あるテーマだった」「新しい知識を持ちたい」という方が多く、新人から経験20年以上の幅広い看護職の皆さんでした。放射線看護、疼痛看護に興味や関心が持てるようになったとの意見が86.3%と高く、日常の看護業務との結びつきが強い、臨床ですぐに活かしたいと好評でした。また、痛みの講義では最後に問題が出され、問題(例題)が一番勉強になったとのこと意見をいただきました。

毎回二つの分野の講義を計画していますが、皆さんのご意見を参考に今後も連携を深めていきたいと思っております。参加したことがない方も、一度ご参加ください。お待ちしております。



## 医療相談員紹介



親川 淳です。  
がんばります！



島袋 和人です。  
よろしくお願いします！

医療ソーシャルワーカーの親川と申します。

私が医療ソーシャルワーカーとして地域医療連携室に配属され、五年の月日が経過しました。4月から新たに非常勤の医療ソーシャルワーカーの島袋が地域医療連携室に配属となり、患者さん・御家族へより肝心(ちむぐる)で温かい支援を提供できる体制が整いました。

医療ソーシャルワーカーは、通院・入院されている患者さん・ご家族が安心して当院の専門医療が受けることができるよう、病診連携・病病連携(前方連携)及び相談支援・入退院支援(後方連携)を行なっております。

「患者様の立場を尊重し高度で良質な医療を提供します」という当院の基本理念のもと、地域との窓口になり、入院から退院後の生活まで支援を行なっています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 地域連携室ニュース 表紙の“美心(ちむぐる)”について…

本来ですと、“**肝心(ちむぐる)**”と書き、「思いやり」「優しさ」「助け合い精神」の意味があります。そこに私たち沖縄病院では、**真心と美しい心**での対応を心がけるという意味で“**美心(ちむぐる)**”と致しました。

今後とも地域の皆様とより良い連携ができますよう頑張りますので  
よろしくお願いいたします。



沖縄病院 地域連携室一同